



YOU ARE
THE KEY

あなたが
鍵です



会長 佐藤順治 幹事 秋野 忠 クラブ委員 吉野 勲 職業委員 板垣広志 社会委員 小池繁治 国際委員 高橋良士 青少年委員 丹下誠四郎

出席報告：会員79 (74)名 出席63名 出席率85.14% 前回出席率82.43% 修正出席65名 確定出席率87.84%

会員スピーチ

寅年生れの会員年頭所感

年男としての所感

松田 士郎 君

1986年の新春を迎えるにあたり、年男としての所感を申し上げます。

私は1938年(昭和13年)虎年の生れです。満で48才、かぞえて49才、男の最大の厄年を迎えました。誰かの小説で「48才の抵抗」という題の本がありましたように、性に対して男としての最後の抵抗を試みる年かとも思います。

現在、私達の年代は社会的にも中核の地位を占め家庭的にも子息が高校受験、大学受験を迎える年代となり、自己の役割の重さを一層痛切に感じさせる年代となり、世間で一般に云う「働き盛り」の真只中にあります。

私自身も含めた昭和13年生れの人間像について、どんな考え方を持っているかをお話してみたいと思います。

衣の感覚について申し上げますと、私達の年代は総じてアカ抜けないと云えると思います。敗戦の混乱期と共に育ったという事もあり、着たきり雀を日常としていたためかとも思います。私達より少し上の世代ならば、戦前のおしゃれ風俗を知っていて飾ることに抵抗感がなかったろうし、下の世代は復興

後のおしゃれも当然であると思います。

食について申し上げますと、私達が物心ついたと思われる時代一昭和16年、17年頃は、第二次世界大戦突入で何も食物がなかった時代でした。育ちざかりは終戦後、スイトン、コウリカン、いものつる等が主食で、美味なたべもの等一切知らなかったと思います。只、飢えをしのぐために胃につめこんでいた世代であります。只大変おいしいと思って食べたものに、この世にこんな美味いものがあったのかと思ったものに台湾バナナがあります。黒くなったような乾燥したようなバナナの味を今もって忘れられません。

性について申し上げますと、赤線最後の年に高校を卒業して、施行前1年間の猶予期間という特殊な時期に大学生、社会人になった世代でもあります。性に対する受けとめ方は人それぞれ違うかと思しますのでコメントを申し上げます。

以上のような特殊な環境の中で育ち、5回目の虎年を迎え、今年無事に終わりますようにとか、二人の娘が無事受験に受かりますようにとか、平凡な所感しか出来ないのが残念です。

虎のお出迎え

中野 清吾 君

25、6年前の事ですが、私は旧一日市町に住んで

あなたが鍵です — 会員増強にご協力を!

庄内空港の建設を推進しましょう

おった当時のことですが、隣が山形銀行鶴岡支店長副島さんであって、至極大きなシェパードを番犬として飼っておりました。或る夜、私は遅く帰宅の途中、このシェパードにバッタリあったのです。副島さんでは夜十時過ぎになると必ず放し飼いをしますのです。(今は放し飼いは出来ませんが) 私は一寸ギクリとして、吐嗟にペス(副島さんの家族はいつもペスと呼んでいた)と叫んだのです。するとペスは声の方向を確かめるようにして立ち止り、東北電力側から直ぐに横切り、向いの御殿小路の方を走っていったのです。やれやれと思いながら私も御殿小路に入ったところ、ペスは川端の曲り角で振りむくような格好で立ちどまり、私の姿を見るとまた走り出し、副島さんと私の家に入るところの小路のところでもた立ちどまっているのです。そして私を見ると境の板塀の柱にチョット失礼して、5、6歩先のところで振りむきかげんにして立ち止まっているのです。私はやっとの思いでその小路を入り、ころげ込むように家に入ったことを覚えております。翌日、副島さんにこの事をお話したところ、シェパードは仲々利口で、自分に危害を加えない人とか隣人の姿とか体臭とかをよく覚えておって、此度隣人のダンナの大虎を安全に帰宅するように道案内し見とどけた上での自分の散歩を続けたのでしようとのことでした。それ以来私は安心して散歩中のペスに呼びかけ、案内をお願いしたことが4〜5回ありました。

先月風邪を引き、2週間程床に入っておったので毎日大変退屈しておりましたところ、文芸春秋新年号が届きました。早速読んでおりましたところ、「三人の卓子」というコラムのところに、茅崎市の安藤耕平さんが「トラのお出迎え」として書いてあります。先月号(12月号)には「ライオンと睨った話」を岸恵子さんが書いてました。私は大変興味をもって読んだのです。しかも野性の百獣の王と相対してどんな方法で退散させたのかと色々想像をたくましゅうしたのです。これは、エジプトの砂漠でロケ中の出来事で、ライオンが出たとの警報後約2時間後だそうです。その王様は満腹で眠気をもよおし

ておったのではないかとのことでした。

安藤耕平さんの虎の話は、スマトラ西海岸沿岸のダハトアの一角に野戦病院の診療所を開設したので、近くにある歩兵部隊へ所長と自分(安藤さん)が宴会に呼ばれた時のことであって、相当量の酒が入り、足もとがふらついた所長を肩にかかえこむようにして宿舍…百メートル位のところの距離しかないところまで歩いていたところ、ふと後を見た時、月影もない暗やみの路上に光る二つの目に明らかに虎と直感。目の位置からしてかなり大きいのが静かに自分達との間隔をおいて尾行してきている。身内の大トラをかばいながらの道行きなので、「所長、後に虎です」等と知らしたら、「何、虎が。よし俺が仕留めてやる」と両虎相対し抜刀となつては大変と、自分に気を落ちつけと云い聞かせながら歩調を早めることもなく、平常心ぶって時に後の方を警戒しながら距離を保ちながら、やっとの思いで宿舍に帰り、背すじにドッと冷汗が流れたことを覚えていると、この間所長はまことにごきげんで歌ったり、靴音高くふみつけながらであったそうです。おそらくこの虎も所長の無事帰舎を見とどけた行動ではないかと思いました。

百獣であっても、シェパードであっても動物は本能的に自分に危害を加えないものを直感的に感じとり、自分から積極的におそいかかることはないのではないかと思いながら読みました。

干支について

佐々木詰彦 君

今年(寅年)です。家を建てる、嫁に行くなどの祝事を非常に嫌うという傾向があります。従って昨年のうちに柱を建て、嫁さんは足入れをする、干支に絡んだお話が沢山ございます。

私は責任をもって会議等を招集する場合、子、丑、友引の日を選定する。この日は葬式をしない。なぜ葬式をしないかと申しますと、根拠は一つもございません。ある地域では子、丑、友引以外寅の日も葬式を出さない。あの世に旅立った人が千里行って千里戻ってくると云われていますが、これまた全然根

扱がございません。ただ友引と云うのは、友達から引っぱって行かれるのではないかということで、その日はやめにしてくれということです。子、丑の場合、お喋話と生活に即した実状があります。

昨今、交通事情が大変便利になり、交通公社さんにかけてみますと、支店長さん大変力のある方で、すぐ切符をとってくれますので目的を果せます。その昔、旅立ちと云うのは朝立ちと云って早く家を出ます。明るいうちに目的地に着いて休養をする。ですから子の刻、丑の刻と云うことは、丑三つ時の言葉で云われます通り夜中に旅立ちさせるのはかわいそうだ、いくらあの世に旅立つのでも子、丑の刻ではなく、足もとの明るいうちに出してやろうではないかと云う心情から子、丑の時には葬式を出さないということが江戸時代から定説となって残っているようでございます。もう一つ十干、十二支という暦の上がございませけれども、十二支の子、丑、寅、卯、辰、巳、先程会長から涅槃という言葉が出ましたが、お釈迦様が亡くなった時、お弟子さん方だけでなく、沢山の方が死を悲しんで寄り集り、また人間だけでなく周辺の動物すべて、あるいは植物まで涙の出るものは涙を流した。

お葬式の話になりますと恐縮なんです、仏式の葬儀に参りますと必ず死花と云うのがございます。死んだ花、または四本の花と書く。これはお釈迦者の周辺を取り巻く四本の木が死を悲しんで、その緑色の葉が一瞬の内に白に化してしまっただけです。こう云うことで四本の花を必ず壇上に立てるわけです。従って白い紙で造っていただいております。お釈迦様が亡くなった時は動物が多く集ってくる。その中には十二支もいた。なぜ、その動物がいたかと云いますと、お釈迦者の徳を慕って近郷近在の百姓、老若男女、あらゆる方が教えを受けに来た時に動物も一

緒にお釈迦様のそばに寄ってきて、毎日一匹づつ身のまわりの奉仕をさせて欲しいと申し出たそうです。お釈迦様は非常に困りまして集まった12匹の動物に対して順序を決めよう、それは向うの山の上まで走って早く帰ってきたものから順次にめんどろを見てもらうことにしてスタートさせ、一番先に戻ってきたのがねずみとうしだった。ところがねずみは小さいので、大きな動物には負ける。インドでは虎が一番早い、当然虎が一番で戻って来るものと思っていたら、牛がトップで入ってきた。なぜ牛を取り上げたかと云いますと、インドいわゆるヒンズー教では牛が絶体とされています。その時の社会の状況から牛と云わざるを得なかったのではないかと云うような気がします。ところがものには上がございましてねずみはとでもこれでは勝負にならないと判断、スタートの時から牛のしっぽにしがみついて一緒に走った。牛は俺がやっぱり一番だと後を振り返ったとたんにしっぽの先からねずみがびよんとおりて、俺が一番だと云うことで子、丑、寅という順序が出来た。ところがお釈迦様はその行為を見て、ねずみはずるいことをした後にまわれ、牛は最後の瞬間に油断をした。従って丑は後に下がれとお釈迦様が裁定をしたので子、丑には葬式を出さない。これはお喋話ですが、こういうようなことはみなさんの生活と仏教の中に沢山ございます。私は当事者として葬式に行っていますが、みなさんが葬式においてになる時、例えば包み紙にはどう書けばよいのか、服装は、なにを持って行けばよいのか、更には手に数珠をかけて、喪服を着て、これらの本当の意味をお聞きしても大抵の方が返答に迷うのではないのでしょうか。これからは私の義務として、2〜3分余った時間を一人づつ頂きながら、わかる範囲でお話しさせていただければ幸いです。

会 長 報 告

佐藤 順治 君

1. 本日16時より第4回クラブ協議会を開催致しますが、常任委員長、特定委員長でなくとも多数ご出席下さいようお願い致します。特に新入会

員は出席して頂きたいものと思います。

2. 台中港区扶輪社の創立15周年記念式典に出席される方について、前例会の時は3名の申し込みがありました。本日は多数の申し込みがあるものと期待致しておりますので、よろしくお願い申し

上げます。

3. 大人について

2月15日はお釈迦様が入滅された日です。この日をしのいで各地で摂心（坐禅の修行）が行われ夜半には「仏遺経」という釈尊の最後の説法を記録した経典を読誦いたします。読誦していくうちに、お釈迦様の入滅のご様子がひしひしと身にせまってくるようです。

この経典の一句に「よく忍を行ずる者は、すなわち有力の大人となす」というお言葉があります。つまり、忍苦の世界を通過して、はじめて人間として「大人になる」ことができるということです。

学問教養のうえで大人になり、社会的に大人になったとしても、精神そのものが大人になっていないと、誉められ風にのぼせ、けなされ風にしょげ、人をねたみ、惜しい、欲しいと心がゆれるようでは、まだ忍苦に耐える「有力の大人」とは申せません。

幹事報告

秋野 忠君

○例会場所、時間変更のお知らせ

酒田R.C

日時 1月19日(日) A.M 11時点鐘
場所 ホテルリッチ酒田

酒田東R.C

日時 1月16日(木) P.M 5時点鐘
場所 山王クラブ

鶴岡西R.C

日時 1月24日(金) P.M 6時点鐘
場所 湯田川温泉 七内旅館

○会報到着のご案内→鶴岡西R.C、東京R.C

委員会報告

親睦活動委員会

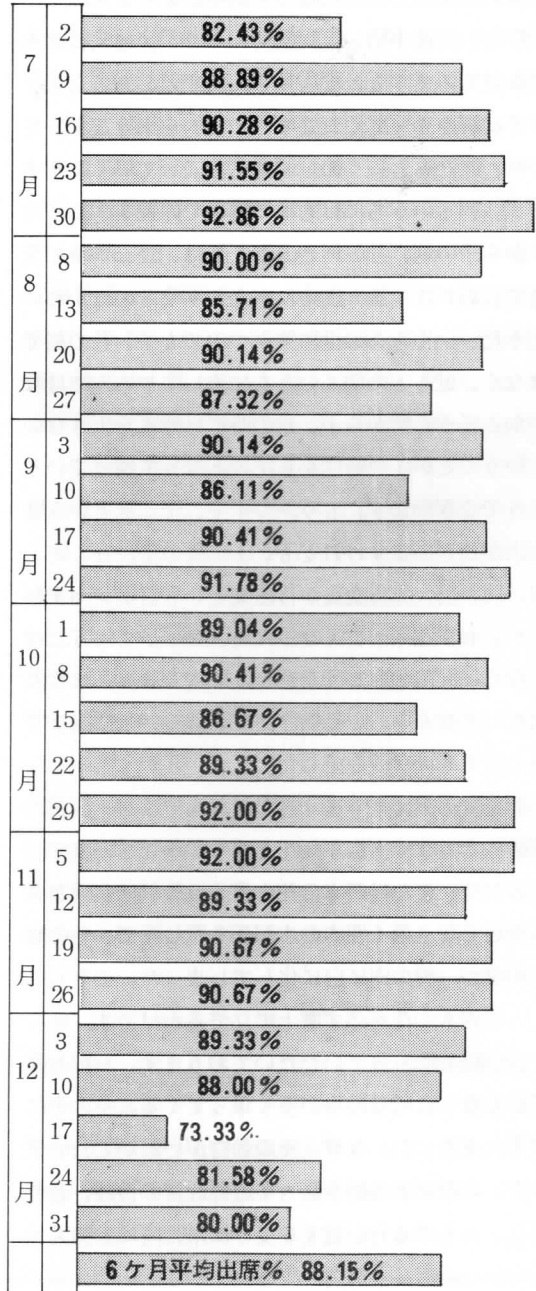
佐藤 昇君

御案内申し上げてあります新年たら汁会に多数の方の御出席をお願い致します。

出席委員会

松田 貞夫君

1985～1986出席率表



ピジター

鶴岡西R.C 鈴木次良君